

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 古勝 隆一					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	『莊子』郭象注を読む										
【授業の概要・目的】											
<p>『莊子』は道家思想の核心的な文献であるが、同書を理解するために欠かせないのが、西晋の郭象が書いた注釈である。この授業では、『莊子』郭象注をなるべく厳密に読み解くことを目標とする。</p> <p>ただ、『莊子』が難解であるのみならず、郭象の注も相当に難解である。テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはむろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>前期は、逍遙遊篇を読むこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『莊子』郭象注の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『莊子』及び郭象注を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
【授業計画と内容】											
<p>『莊子』郭象注の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回～6回 逍遙遊篇「北冥有魚」章 ・第8回 逍遙遊篇「堯讓天下」章 ・第9回～10回 逍遙遊篇「肩吾問於連叔」章 ・第11回～13回 逍遙遊篇「北冥有魚」章 ・第14回 逍遙遊篇「北冥有魚」章 ・第15回 フィードバック。 											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・概説書程度の現代中国語を読んで理解できること。 ・現代中国語の正しい発音ができること。 ・正しい日本語を書くことができること。 											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源(修訂本)』(いずれも商務印書館)、もしくは『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学習(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。